

情報連絡員報告総括表（令和7年1月分）

三重県中小企業団体中央会
連絡員総数 40名
回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況								
		増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化						
製 造 業	食 料 品		3	1		4		3	1			3	1		3	1		4			4			4			3	1						
	織 維 工 業		2	1		3		1	2			3			2	1		2	1		2	1		3			2	1						
	木 材 ・ 木 製 品			1		1				1			1			1		1				1		1				1						
	紙 ・ 紙 加 工 品		1	1	2			2				2			1	1		1	1		1	1		2			2							
	印 刷		1			1			1			1			1			1			1			1			1							
	化 学 ・ ゴ ム																																	
	窯 業 ・ 土 石 製 品		2	1		3		1	2			3			2	1		3			3			3			3							
	鉄 鋼 ・ 金 属		1			1			1			1			1			1			1			1			1							
	一 般 機 器	1		2	1	2		2		1		3				3		1	2		1	2	1	2			1	2						
	電 気 機 器			1			1			1		1				1			1			1		1				1						
	輸 送 機 器			1	1			1				1				1			1			1			1			1						
	そ の 他																																	
小 計		1	10	9	4	15	1	10	7	3		18	2		10	10		14	6		13	7	1	18	1		13	7						
非 製 造 業	卸 売 業		2			2		1	1			2			1	1		2		X				2			2							
	小 売 業	2	3	1		6		4	2			4	2		4	2		4	2					6			4	2						
	商 店 街		1			1		1				1			1			1						1			1			1				
	サ ー ビ ス 業	1	2	1	X			2	2			3	1		3	1		3	1					4			4			3	1			
	建 設 業		3	1					4			3	1		3	1		3	1					3	1		4			4			2	2
	運 輸 業		1						1			1			1			1						1			1			1			1	
	そ の 他		1	1					2			2			2			2						2			1	1		1	1		2	
小 計		3	13	4		9		8	12			15	5		14	6		16	4		19	1		19	1		15	5						
合 計		4	23	13	4	24	1	18	19	3		33	7		24	16		30	10		13	7	1	37	2		28	12						

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和6年1月～令和7年1月)

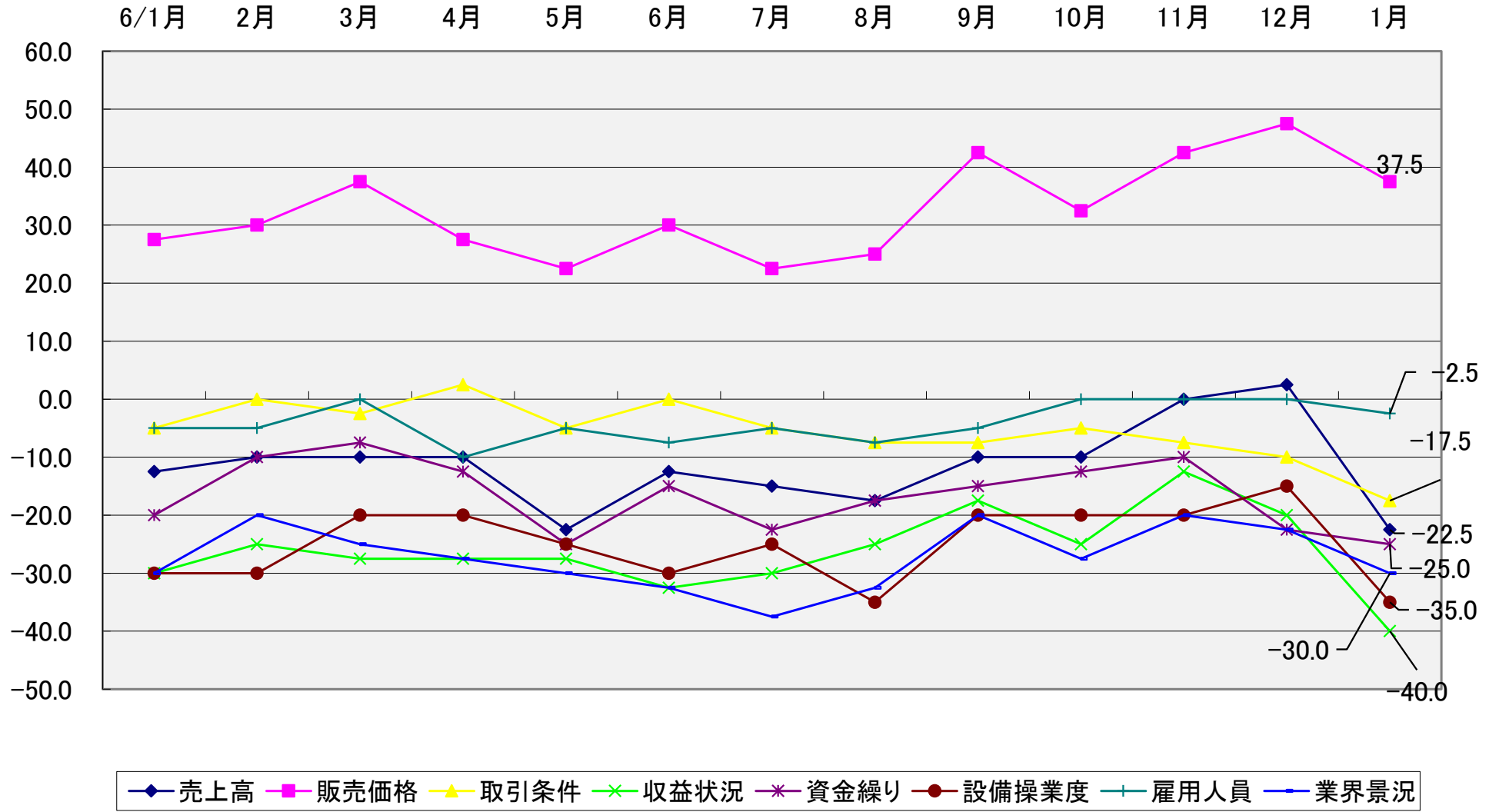
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	6/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	増減
売上高	-12.5	-10.0	-10.0	-10.0	-22.5	-12.5	-15.0	-17.5	-10.0	-10.0	0.0	2.5	-22.5	-25.0
販売価格	27.5	30.0	37.5	27.5	22.5	30.0	22.5	25.0	42.5	32.5	42.5	47.5	37.5	-10.0
取引条件	-5.0	0.0	-2.5	2.5	-5.0	0.0	-5.0	-7.5	-7.5	-5.0	-7.5	-10.0	-17.5	-7.5
収益状況	-30.0	-25.0	-27.5	-27.5	-27.5	-32.5	-30.0	-25.0	-17.5	-25.0	-12.5	-20.0	-40.0	-20.0
資金繰り	-20.0	-10.0	-7.5	-12.5	-25.0	-15.0	-22.5	-17.5	-15.0	-12.5	-10.0	-22.5	-25.0	-2.5
設備操業度	-30.0	-30.0	-20.0	-20.0	-25.0	-30.0	-25.0	-35.0	-20.0	-20.0	-20.0	-15.0	-35.0	-20.0
雇用人員	-5.0	-5.0	0.0	-10.0	-5.0	-7.5	-5.0	-7.5	-5.0	0.0	0.0	0.0	-2.5	-2.5
業界景況	-30.0	-20.0	-25.0	-27.5	-30.0	-32.5	-37.5	-32.5	-20.0	-27.5	-20.0	-22.5	-30.0	-7.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いており、ウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により、特に電気代の値上がり経営を圧迫する状態が続いている。また、昨年末からの高温乾燥による原料野菜の生育不良に加えて、年明けからの寒波の影響により、大根、白菜等の漬物用原料野菜の生育不良による原料の高騰の影響が出ている。今年度からJA多気郡が伊勢たくあん製造のための原料栽培を始め、御園大根の天日干しを行い、伊勢たくあんの漬け込みを行った。今後伊勢たくあんの振興に向けて取り組みを進める。
	醤油味噌	1月の業況に大きな変化はなく、前半は長期の年末年始休暇により帰省、観光に出かける人も多くモノの動きは活発であった。しかし、正月休暇明けからは需要低迷期に入り生産も一服といった様子である。トランプ米大統領の就任による政策転換で、政治経済の不安定化が増し日本経済の今後の先行きが不透明感を増すものと思われる。2~3月にかけ食品の値上げラッシュが加速し消費者の買い控えが心配である。2月に出展を予定している展示会に向けて、組合と参加組合員は準備を始めた。
	他に分類されない食料品 製造業	従来、家業として製パン業と牛乳の宅配を60年近く続けてきたが、ここ数年での変化は目まぐるしく、廃業も考えてしまう状況である。値上げによる顧客離れ、燃料費の増加など、新しく体制を整えなければ適応していけない。今までの業者間での対立競争は無意味で、大きく共存していく方向を見なければと思う。対応しなければ生き残っていけない。
	製麺	1月28日全国の理事長会議に出席した。現状では組合員の方々の廃業が止まらない。各都道府県も組合の存続が厳しい状況である。明るい情報としては、製麺通信講座が4月中旬より開講するに当たり受講者の募集中である。昨年も200名が受講され、麺の本が皆様より関心もあり今年も200名位が参加の予定であり、今後が楽しみである。
木材・木製品	木材	依然として原木高の製品安傾向の中、製材工場は厳しい経営環境が続いている。
紙・紙加工品	木材チップ	原材料価格が高止まりしているため原料確保が課題である。 従業員の確保が困難である。
	古紙	1月の仕入れ量は、段ボール・約95±4%位、新聞、チラシ・約92±5%位、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約92±7%位である。コロナ明けの年末年始を終えてコロナ前の経済状況には戻らないが、コロナ禍を耐え忍んだ中小零細企業が人手不足になるように9割程度の経済状況のように思う。実質経済状況と同じく製紙会社の1月+2月の古紙発注量は前年比マイナスとなっており製紙会社の製品原紙の軽量化や容器容量の適正化・包装資材の紙以外への転換や暖冬等による影響かも知れない。トランプ米大統領の就任により今後も自国なんでも一番の影響が世界的に出ることになる。これからは金銭的男性社会の時代は続き権力者ファーストかつ都合の良い立法化と抜け道利用も続くと思われる。年始の全国製紙原料商工組合連合会で政治家の先生方から古紙の持ち去り禁止法案を議員立法で制定していただけたことと暗闇に明かりが射しているが、現状ではゴミ等の置き去りや古紙や古着の持ち去りの行為は無くならず今も会社経営の大きな経済的負担となっている。四国の製紙会社の古紙購入スポット価格が1割以上値下げとなり同業者の持ち去り古紙買取価格の値下げをしたのか、法制化の警戒感か、その他の要因か、分からないが、三重県方面の新聞雑誌の入荷量率が改善された感じです。
印刷	印刷	一部の県発注物の仕様書において、これまでFSC認証オンプロダクトラベルについて、未取得事業者による落札・応札があったが、当組合より取得事業者より証明書の提示を条件とするよう要望を出していたが、これについて県の仕様より応札時に提出と記載された(ただし、未取得事業者の応札は散見される)。昨年同時期に記載した、県から共同窓口みえへ見積依頼する直前に、我々印刷事業者から下見積りに見積依頼があることを記載したが、この時期において変わらず先行見積りを依頼される。昨年も記載したが、見積を提出しても、共同窓口みえにて発注が決まった際には、我々事業者は単なる見積屋になり、受注機会を与えられない事になることについて県の見識を疑う。優先順位が共同窓口みえならば、先にそちらで見積依頼を行い、条件が合わない場合、印刷事業者による見積が順序ではないのでしょうか。県職員に尋ねても制度としか答えず、その制度について印刷事業者側は同意は誰もしていないと思う。
窯業・土石製品	伊賀焼	今月も原料の更なる値上げの連絡があり、組合員は頭を悩ませている。業況については徐々に上向きになってきているが注文等に対応できていない状況にある。
鉄鋼・金属	鍍金	業界の生産額は、堅調な状況である。中心は自動車関係であり、EV関連の受注が増加している一方、従来の燃料系はやや伸び悩みがみられる。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
一般機器	四日市市	昨年末から受注、引き合いは停滞気味である。全体的に様子見の状況が続いていると感じる。自動車向けの機械装置や金型など、あまり動きが見られないため、金属加工関連の企業は非常に厳しい状況となっている。また組合企業においても設備投資等は慎重になっている。人材不足の状況は依然として変わっていない。今後の人口減、仕事量減に対応していく必要がある。
	津市	自動車部品が思うほど伸びていない。売上高が上がったのは材料単価の上昇に伴う値上げのためで、実質は昨年並みか微減となるため良くはない。そのため、収支は悪化している。トランプ米大統領に変わったことで、これから先の自動車産業にどう影響するのか非常に心配である。
	伊勢市	昨年に引き続き、年明けからも景況は変わらず、厳しい状況は続いている。特に中部地区自動車関連の製造業は軒並み低調が続いており先行きは不透明である。このことから製造業も設備投資を控え、工作機械関連も悪化する一方である。来季、4月以降の企業の設備投資に期待したい。
	鳥羽市	期末後半に入り例年なら受発注が活発に動く時期であるが動きが遅く例年と比較しても40%ダウンの状況で推移しており非常に厳しい状況が続いている。
電気機器	鳥羽市	期末後半に入り例年なら受発注が活発に動く時期であるが動きが遅く例年と比較しても40%ダウンの状況で推移しており非常に厳しい状況が続いている。
輸送機器	伊勢市	全体的には大きな変化なく、好転の兆しもまだない。物量の回復が無い中、賃上げ、金利上昇、企業物価の高止まり等、国内における経営圧迫材料増加、米中関係、欧州景気等、不透明感が大きく、非常に厳しい現状にある。
非製造業	青果	昨今の物価高騰などにより、生鮮食品の物流を取り巻く状況は依然として非常に厳しい状況である。一方、生鮮食品の流通業者は地域基幹産業でもある農業など第一次産業と消費者を繋ぐ極めて重要な役割を担っている。とりわけ小規模の小売店(組合員)は、消費者である顧客に対して卸売市場を通して、安心安全な豊富な品揃えの生鮮食品をお値打ち価格で提供するなど、それぞれの地域において欠かすことができない存在となっている。 野菜前半：年末年始を挟み入荷が不安定で高値を維持していたが価格が落ち着いてきたものもある。熊本産ゴボウは質が良く価格も例年並み。高騰していたキャベツ、白菜は若干価格を下げた。静岡県産新玉葱は長く続いた猛暑や干ばつの影響で入荷が少ない。 野菜後半：引き合いが弱く、高値疲れで価格が落ち着いてきた。今まで高かった静岡県産兵庫産のレタス、熊本産トマト、地場産ほうれん草が手に届きやすくなってきた。節分が近づき、キュウリの需要が増え、値を上げている。 果物前半：入荷が不安定で全体的に高値が続く。いちごは需要が落ち着き値下げした。みかんは入荷が少なく高値が続く。青森産リンゴは平年に比べ、入荷量が少ない。甘夏みかん、イヨカンも入荷が少なめである。 果物後半：県内産いちごは、入荷量が増え値下がりしている。しばらくこの状態が続くそうである。リンゴは青森産、サンフジ、王林を中心に入荷した。中晩柑のイヨカン、デコポンの作況が良くなく、入荷が少ない。
	自転車	物価高で実質賃金のマイナスが続いている状況下、日銀は24日に追加利上げを決定した。エネルギーコストや人件費の高騰と違って金利負担の増加は価格転嫁の理由にしにくい中、先月にメーカーはメンテナンスパーツ等の価格改定を打ち出してきた。我々小売店としては利益率の高い技術料で価格上昇をしなければならぬ状況となっている。組合の活動としては大型店、チェーン店等の動向も見極めながら動き始めている。商品に至っては1月中旬より展示予約会を開催したショップもあり昨年並みの台数は何とか確保した模様である。しかし、金額的にはユーザーの財布のひもが固く、昨年までの高価格商品から中低価格商品が売れ筋となっている。
	電器	年末の駆け込み需要と休日が多い分、忙しさや売り上げは落ち着いているのが年始の慣習なのだが、前年と比較すると全体に上回っていたと思う。価格高騰で買い控えがあった前年からすると、故障や保有年数経過での買い替えが増えた事と購入単価が上がっているように推測する。光熱費が値上げされている状況から省エネ機器へ買い替えが進んでいる事も考えられる。
	石油	石油情報センターの27日時点の石油製品小売市況調査によると、レギュラーガソリン全国平均は前週と同値のLあたり185円10銭とのことである。政府補助金縮小以降、SSごとに小売り価格の微修正がみられたが全国平均では、横ばいにどまり3週ぶりに上げとどまったとのことである。三重県内の価格はインターネットによる小売価格の現状を見ると166円/Lと全国平均からすると20円弱/L低価格との掲載がある。 業界としては少なくとも仕入れ価格がある以上、適正な利益を見込んで販売を行いたいものである。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
商店街	熊野市	今月開催された商店街イベントは、熊野のさんま丸干し1000本をふるまう今回で10回目を迎えた「熊野さんま祭り」が熊野商工会議所との共催にて開催された。ふるまいがスタートする10時前までにはたくさんの方が列をなし焼きあがったさんま丸干しを舌鼓されていた。地元はもとより名古屋や関西方面から来られた方もいたようで、出店されたさんま販売業者の売れ行きも相当な売れ行きがあり、また他の出店業者も売れ行きは好調でお昼前には売りきれの店舗が数多くあった。
サービス業	旅館	諸物価高騰による消費の落ち込みや出控え等による影響は大きく、インバウンドの少ない三重県は他県に比べて大きく落ち込んでいる。対前年同月比90~100%、2019年同月比70%程度のものであった。インバウンドが多く行っている一部の観光地が報道されていて、コロナ禍は終わったかのように思われているのが残念である。実際はまだまだコロナ禍は終わっていないことを理解していただきたい。
	一般廃棄物処理	人口減少に伴って仕事量の減少や、従業員確保難(高齢化)が問題となっている。
	警備	例年に比べて仕事量が少ない。工事発注が減少をしている。
建設業	総合工事業	12月末時点の公共工事の県内企業の受注状況は、前年度同月と比べ同程度であり、その内訳は国と県の契約が増減、市町が減少の状況となっている。
	内装工事業	1月は対前年同月比でマイナスとなった。前年同月比では令和5年度1~3月分が極端に高い数字のため、どうしても今年度比較するとマイナスになると思われる。
	水道工事業(亀山市)	資材価格の高騰が続く中、仕事の受注はあるが、利益につながるかは不透明な状況が続いている。水道管の漏水処理は行っているが件数は減少傾向である。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	関西万博に向けて伊勢うどんの拡大を図っていただけるようにまた情報をよろしく願います。
一般機器	四日市市	物価上昇、賃金アップ、人不足と事業環境は厳しく、業界全体で活況な業種が少ないように感じる。中小企業の今後の経営環境が改善されるよう支援をよろしく願います。
小売業	青果	近年は、組合員の高齢化と急激な環境の変化により組合員の減少が進んでいます。つきましてはそれぞれの地域にとって欠かすことのできない、小売店の環境改善に向けて新たな経営支援事業等を早急に創設していただきますようお願い申し上げます。
サービス業	旅館	需要喚起策を早急に実施してもらいたい。「地域割」等以前のコロナ対策を再度お願いしてもらいたい。